

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス こあゆ		
○保護者評価実施期間	令和6年 5月 日		令和6年 6月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和6年 5月 日		令和6年 6月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 7月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	他学年の児童が幅広く利用していることにより、異年齢での関わりや経験の幅が広がっている。	活動において下級生と上級生を組み合わせる等の工夫を行い、制作やチーム活動を通して交流の機会を設け、社会性の向上につながるよう支援している。	日々の活動をより充実させるため、職員間での話し合いや振り返りを行い、児童の意見も取り入れながら活動内容の改善を図っていく。
2	軽度発達障害やADHDの児童が多い中で、中度・重度障害の児童も含め、同じ活動に参加できる環境を整えている。	単位1では制作活動、単位2では運動療育を中心に行い、児童の特性や興味に応じた活動の選択や参加方法を工夫している。また、誰もが参加しやすいよう支援方法を調整している。	児童一人ひとりの特性に応じた支援の統一を図るため、職員間での情報共有を強化し、より個別性に配慮した関わりができるよう取り組んでいく。
3	多様な特性を持つ児童が同じ空間で過ごすことで、相互に刺激を受けながら成長できる環境となっている。	活動の中で役割分担や声掛けを工夫し、それぞれの児童が無理なく参加できるよう配慮している。	中度・重度障害児に対するより細やかな支援が課題であるため、支援方法の見直しや職員のスキル向上を図り、個々に応じた支援の充実に努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	中度・重度障害の児童に対して、個々の特性に応じた細やかな支援が十分に行き届いていない場合がある。	児童の特性や支援方法について、職員間での共有や理解に差があることや、個別支援に十分な時間を確保できていないことが要因として考えられる。	定期的なミーティングや事例検討を行い、支援方法の共有と統一を図る。また、個別支援の視点を意識した関わりを強化し、職員のスキル向上に努める。
2	活動内容が全体向けになりやすく、一部の児童にとっては難易度や参加方法が合わない場合がある。	幅広い学年や発達段階の児童が在籍しているため、一律の活動設定では個々に最適な支援が難しい状況がある。	活動内容に段階や選択肢を設けるなどの工夫を行い、児童一人ひとりが無理なく参加できるよう調整する。また、事前のアセスメントを活用し、個別に応じた支援の充実を図る。
3			